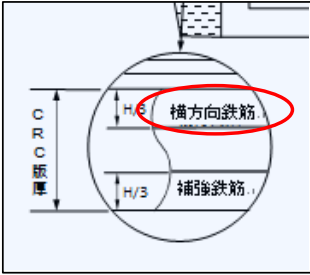
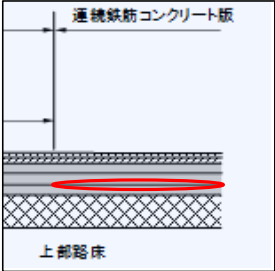
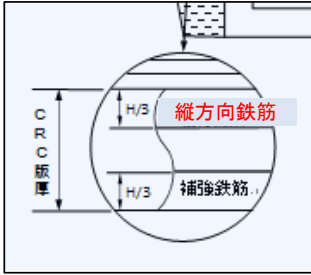
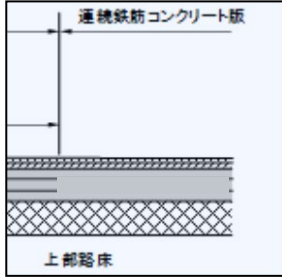


「コンクリート舗装ガイドブック 2016」の正誤表

(令和6年2月28日現在)

頁	箇所	誤	正	摘要
H28.10.28				
28	式 (4.2.2), 表-4.2.4 の下の式	式 (4.2.2) 設計支持力係数 = 平均支持力係数 × $\frac{\text{支持力係数の最大値} - \text{支持力係数の最小値}}{C}$ 表-4.2.4 の下の式 路床の設計支持力係数 = $95.3 \times \frac{121-66}{2.67} = 74.7 \approx 75$ (MPa/m)	式 (4.2.2) 設計支持力係数 = 平均支持力係数 × $\frac{\text{支持力係数の最大値} - \text{支持力係数の最小値}}{C}$ 表-4.2.4 の下の式 路床の設計支持力係数 = $95.3 \times \frac{121-66}{2.67} = 74.7 \approx 75$ (MPa/m)	第2刷で修正済
30	4-2-6 本文の13行目	路盤支持力係数を 0.3, 危険率を 5% とすると, . . .	路盤支持力係数の 変動係数 を 0.3, 危険率を 5% とすると, . . .	第2刷で修正済
99	表-4.6.1 中の②	施工規模が大きい場合 (舗装施工便覧)	施工規模が大きい場合 (セメントコンクリート舗装要綱)	第2刷で修正済
212	5-8-9 本文の3行目	②鉄筋に氷が付着 . . . , 鉄筋との 付着剛性 が著しく . . .	②鉄筋に氷が付着 . . . , 鉄筋との 付着強度 が著しく . . .	第2刷で修正済
213	コラム 19 図-C19.1	 <p>赤丸の部分の線が不要</p> 	 	第2刷で修正済

「コンクリート舗装ガイドブック 2016」の正誤表

(令和6年2月28日現在)

頁	箇所	誤	正	摘要
220	図-6.4.2 中の(1)	$(1) f_{br} = (f_{bk} + f_p) \times p$ ここに、 f_{br} ：配合曲げ強度 f_{bk} ：設計基準曲げ強度 f_p ：締固め安全強度 p ：割増し係数	$(1) f_{br} = (f_{bk} + f_p) \times p$ ここに、 f_{br} ：配合曲げ強度 f_{bk} ：設計基準曲げ強度 f_p ：割増し強度 p ：割増し係数	第2刷で修正済
303	1 設計条件 本文の7～8行目	「通常、スランプは5～8cmだが、機械施工であるため、下限である5cmとした。」	(表-4.6.2の記述に合わせ) 「通常、スランプは3～8cmだが、セットフォーム工法であることや現場条件等から、本設計例では5cmとした。」	第2刷で修正済
317	付表-2.3.5 備考の(6)	実績率	実積率	第2刷で修正済
323	2) 単位水量の検討 本文の3行目	フレッシュコンクリートは柔らかく	フレッシュコンクリートは軟らかく	第2刷で修正済
H28.12.7				
186	図-5.4.2			第2刷で修正済
R4.12.14				
47	5) 温度応力の計算 本文の6行目	$\Theta_k = -1^\circ\text{C}$ の場合、 $\sigma_{12} = 0.35 \times 0.90 \times 0.00001 \times 28000 \times 1 = 0.09$ (MPa) となる。	$\Theta_k = -1^\circ\text{C}$ の場合、 $\sigma_{12} = 0.35 \times 0.90 \times 0.00001 \times 28000 \times -1 = -0.09$ (MPa) となる。	第4刷で修正済
54	図-C9.1 図中の数式	$n = 0.0119 \exp\{3.917(P/49)\}$	$n = 0.0119 \exp\{3.971(P/49)\}$	第4刷で修正済